

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム のどか		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0170202808-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人がまだ出来ることを、継続して楽しみながら行えるよう支援しています。
また、集団での楽しみとして年間行事の計画を立て、ご家族様への参加を呼び掛けています。
サービスの質を向上させるため、職員のスキルアップを目指し内部、外部研修を実施しています。
また、ユニットごとに現状を把握し目標設定を行っています。
共用型認知デイサービスを行い、グループホームの入居者様も外部の方々と交流し地域の行事にも参加できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR百合が原駅から徒歩数分の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には大小の公園やコンビニエンスストアがあり、利便性に優れている。建物内は季節の装飾が施され、明るさや温度の管理も適切である。車いす用のトイレや広めの浴室が整っている。共用空間は庭に面して窓があり、和室の小上がりも利用できる。利用者が自分のできることを継続できるように支援し、食事の手伝いや季節の装飾づくり、レクリエーションへの参加など、活発に活動している。法人として職員教育に力を入れ、研修体制を整え、資格の取得を支援している。職員同士のコミュニケーションがよく職員の定着率も高い。マニュアル類も整備されている。ケアマネジメントの面では、アセスメントシートや生活歴シートにより状況把握を適切に行い、計画見直し時のモニタリング実施記録やカンファレンス記録も見やすく整理されている。看取りについては、希望に沿って事業所でできる範囲の支援を行う方針とし、過去に数名の看取りを行っている。外出支援の面では、日常的な散歩や買い物の他に年間を通じて計画的に外出行事を設定し、花見、外食、動物園見物、イルミネーション見物などに出かけている。個別の外出も希望に応じている。職員が利用者に優しく丁寧に接し、利用者が安心して過ごすことができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を復唱し共有している。	開設時に制定した事業所独自の理念の中で「地域と共に笑顔のある生活」と掲げ、地域密着 型の意義を踏まえている。理念を玄関、事務所、ユニットに掲示し、朝礼で唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う夏祭りや盆踊りなど参加し、交流している。	地域の夏祭りや盆踊りに利用者と参加している。散歩の際に住 民と挨拶を交わし、花の差し入れを受けることもある。装飾品と一緒に作るボランティアの来訪を受けている。一方、地域の子供たちとの交流は実現できていない。	地域の子供たちとの交流に取り組む意向を持っており、実現できるよう、積極的な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会と協力し事業所職員が認知症サポーター講座を開催し、認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議にて入居者様の様子を報告するとともに、町内の様子や、催し物の予定を聞いている。要望や意見交換を行いサポーター養成講座を開催した。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員や町内会長、婦人部、民生委員などの参加を得ているが、家族の参加は得られていない。防犯や健康管理、行事などを話し合っている。議事録を家族に送付している。	家族の参加に向けた継続的な呼びかけと、参加が難しい場合は事前に意見を聞き、会議に反映することを期待したい。また、会議のテーマをより計画的に設定し、話し合いを行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加し報告するとともに、意見交換を行い協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けている。市や区の管理者会議でも情報交換を行っている。職員が認知症サポーター養成講座に講師として協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行うとともに、実践を行っている。玄関の施錠に関しては、防犯の意味から今年度より施錠している。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、年1回は勉強会を行っている。玄関は日中も施錠しているが、利用者でも内側から簡単に開けることができる。ユニットから玄関に通じる戸に鈴をつけ、出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、入浴時や更衣時に身体確認にて異変に気付けるように努め、ご家族や主治医に速やかに報告している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っているが、理解が不十分である。必要な場合身元保証人の方へ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者又は計画作成担当者が説明し理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見BOXを設置し直接言いにくいことも、意見できる環境作りを行っている。	家族の来訪時や介護計画説明時に意見を聞き、得られた意見を連絡ノートに記載したり医療記録を活用して記録し、共有している。毎月、写真入りのホーム便りを作成し、利用者の様子を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い意見を聞いている。また困っている事などを用紙に書き、提出する試みを行っている。	毎月、全体会議とユニットごとのカンファレンスがあり、活発に意見交換している。職員は年1回以上、管理者と個別面談を行う機会がある。職員は、備品や消耗品の管理、食事メニュー作りなどの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にて労働時間や目標設定の話し合いを行い働きやすい、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修実施し、年間計画にて外部研修にも参加している。また外部研修を受けた職員は他職員への伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での職員研修に参加しているが交流までとはいかない。社内研修で他事業所との交流がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて本人の希望を聞きプランの作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学されている時点で困りごとなど、話を聞き事前調査にて、再度要望を聞き取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成後、しっかり説明し必要としている支援かの確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは行って頂き支えあう関係としている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てくれる家族様が多く、通院なども積極的に行って頂き、本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との外出の機会を設けることはあるが、なじみの人や場所の支援はできていない。	1名の利用者に知人が、4名程の利用者に親戚が来訪している。隣接するデイサービスからの入居者は、デイサービスに出かけ、前からの馴染みの利用者に会うことができる。近所のコンビニエンスストア、スーパー、寿司店など馴染みの店に通う方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を把握し、関われるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等あれば話を聞き、支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何に困っているか本人を主に考えている。職員の困りごとにはしていない。	半分ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方の場合も生活状況から把握している。個々のアセスメントシートを整備し、「生活歴」シートに趣味や嗜好の情報も記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の得意、不得意、生活歴などを聞き取りし書類に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なにができるか。どこまでならできるか。できなくなってきたことなど、把握し情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様で意見を取り入れカンファレンスを開き、現状に合った計画書を作成している。職員からのアイデアはまず試している。	介護計画を3か月毎に見直ししている。見直し時のモニタリング実施記録、カンファレンス記録が分かりやすく作成されている。日々の介護記録は目標の番号を記載しながら計画を意識して記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果を分かりやすく記入し、特に気になったことは、個別ノートにて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの中でホームでできることは何かを常に考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティア活動の協力を得て、物づくりを提供し楽しみを見出している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問で月2回定期的に診てもらい、医師から指示があった場合、専門医へ受診してもらうよう事業所がご家族様へ働きかけている。	3か所の医療機関がそれぞれの利用者に月2回往診に来ている。内科以外の通院は家族対応だが、必要時は事業所で送迎している。受診内容を往診分、通院分に分け、個人毎に記録している。	

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護にて体調、精神面で気になっている事は報告し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態や退院の目途など病院のソーシャルワーカーと連携を取り合い、退院時にはサマリーをもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師を交えて方向性を話し合っている。また参加できなかった職員へも情報をしっかり伝えている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。過去に数名の看取りを行い、職員に経験者が多い。看取りに関する勉強会を行い、外部研修に職員が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で応急的な初期訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震と定期的に避難訓練を行っている。	年2回、昼夜を想定して火災の避難訓練を行い、水害対応の訓練も行っている。一方、最近は消防の派遣や住民の参加が得られていない。救急救命訓練を計画的に進め、災害時に必要な水や食料等の備蓄品を用意している。	年1回は消防の派遣や指導を得た避難訓練の実施を期待したい。また、訓練に地域の方の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには配慮をしているが、十分とはいえない。	利用者には「さん」づけで呼びかけ、不適切な言葉かけがあればその都度注意を促している。接遇マナーやプライバシー保護の研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クローズクエスチョンやオープンクエスチョンを用いてできる限り自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望みそうなことを、こちらから提案し希望にそって支援している。散歩に行きたいと希望があるが、すぐには対応できない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶなどできる範囲で行っている。また目やにや食べかす、よだれ等本人ができない場合は介助している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、盛り付けをする、片付ける。食器を洗うなどなど一緒にできることを行っている。	戸外で焼き肉パーティーをしたり、誕生日は本人の好きな献立でお祝いしている。サッポロファクトリーに出かけて好きな物を選んで食べたり、六花亭や石屋製菓などでおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録を付け、本人が食べれる量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は毎食後実施しているが、習慣から昼は磨かない人もいる。仕上げ磨きが必要な方には職員が介入している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、必要な方へは時間で誘導している。また、できる限りできることは自分で行ってもらおう声をかけている。	声かけや誘導が必要な方の排泄を記録して、失敗が少なくなるように取り組んでいる。日中は全員トイレでの排泄を支援し、夜間のみベッド上でのパッド交換で対応する方がいる。入居後の対応で、おむつからトイレでの排泄が可能になった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含んだものを提供し、運動や腹部マッサージを取り入れているが、薬でのコントロールが必要な方も多い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が気持ちよく入浴できるよう、時間や声かけに配慮している。	毎日午前中を中心に、週2回の入浴を支援している。一番風呂の希望や好みの湯加減に配慮したり、拒否がある時は日時を変更して声をかけ入浴できるように工夫している。柚子湯を楽しんだり、歌いながら入浴をする方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思で昼寝をし、就寝時間も自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、情報の共有とともに職員2人で確認している。また利用者様から聞かれ時は、説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を通して役割を作り張り合いを見出したり、レクリエーションで気分転換を支援している。制作など得意なことは積極的に取り入れている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に取り入れ、外出の機会を設けている。またご家族様へも呼び掛けている。普段は散歩に行けるよう努めているが、本人のタイミングで行くことが難しいことがある。	普段は玄関先や庭で外気浴をしたり、車いすの方も一緒に公園や近隣を散歩している。個別支援で、買い物や外食に出かけることもある。花見で厚田方面に出かけたり、白い恋人パークや円山動物園に外出している。冬季も大通公園のイルミネーションを見学している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の持ち込みはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できることを伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をかえ、装飾の制作を一緒に行っている。	居間は、庭が望める大きな窓に面しており明るく落ち着いた雰囲気になっている。利用者と一緒に製作した季節の装飾やリース、書初めなどが壁に飾られている。自由に読めるように、童話や新聞なども準備している。ソファの配置や和室の小上がりは、ユニット毎に使いやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で同じ食卓で過ごしたり、一人になりたい時には居室へと声をかけたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族へなじみの物を持参するよう伝えるが、新しく購入することが多く、入居してからなじみのものになっていくことが増えた。	備え付けのクローゼットがある居室に、タンスや小物入れ、好きな縫いぐるみなどを持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。家族の写真や自分の作品を飾ったり、好きな観葉植物や花を育てながら、その人らしい生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をする。本人がわかるように貼り紙をするなどの工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム そよぐ		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202808-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人がまだ出来ることを、継続して楽しみながら行えるよう支援しています。 また、集団での楽しみとして年間行事の計画を立て、ご家族様への参加を呼び掛けています。 サービスの質を向上させるため、職員のスキルアップを目指し内部、外部研修を実施しています。 また、ユニットごとに現状を把握し目標設定を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一部職員の交流になりがちなので全体的な交流を目指したい。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会と協力し事業所職員が認知症サポーター講座を開催し、認知症の理解に努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議にて入居者様の様子を報告するとともに、町内の様子や、催し物の予定を聞いている。要望や意見交換を行いサポーター養成講座を開催した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加し報告するとともに、意見交換を行い協力関係を築いている。GH連絡会や札幌市の集団指導へ参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、事業所全体で理解にとりくんでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、自己評価やグループワークで発表している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強したり、資料を参考に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項の説明とともに、丁寧に言い、質問なども聞いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見BOXを設置し直接言いにくいことも、意見できる環境作りを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い意見を聞いている。また困っている事などを用紙に書き、提出する試みを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にて労働時間や目標設定の話し合いを行い働きやすい、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修実施し、年間計画にて外部研修にも参加している。また外部研修を受けた職員は他職員への伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での職員研修に参加しているが交流までとはいかない。社内研修で他事業所との交流がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の情報をもとにカンファレンスを行い、職員間で情報を共有し、本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族様からの話を詳しく聞き取り、計画書に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様と話し合いを行い、アセスメントをし支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、協力しあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を細目に行い、小さな変化も伝え信頼関係を深めて、ご家族様も本人を支える気持ちをもって接していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの物を居室に置いている方も多く、お手紙のやり取りをしている場合、はがきやペンの場所をお知らせしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で散歩やレクリエーション活動ができるよう支援しています。またお手伝いも一緒に取り組めるよう支援しています。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等あれば話を聞き、支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から希望を把握できるよう、職員間で常に話し合っている。必ず本人に聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から話を聞いたり、個人ファイルをいつでも見られるように職員へ伝達されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かな変化を見逃さないよう観察し、伝えるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろからご本人やご家族様と意見交換を行い、計画作成時には現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	レセプト、個人ノート、日々の送りノートで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化時は話し合いを行い、対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の集会へ参加し地域の把握に努め、協力依頼を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問で月2回定期的に診てもらい、医師から指示があった場合、専門医へ受診してもらうよう事業所がご家族様へ働きかけている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護にて、小さな変化も伝え相談している。また看護師のコミュニケーションにも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態や退院の目途など病院のソーシャルワーカーと連携を取り合い、退院時にはサマリーをもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人の想いを一番大切にし、医師、職員を交えて話し合い、不安を取り除けるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施し、緊急連絡先の確認も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、避難場所はわかるようにしている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには配慮をしているが、日々の課題である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理な声掛けはせず思いを表出できるよう、コミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き、尊重できるように心がけている。また希望は日々変化するので、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性は入浴後のヘアセットやメイクに気づき、言葉をかけるなど細かく配慮している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の得意分野を見つけお手伝いしていただき、一緒に取り組んでいる。好みを聞いてメニューに取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録を付け、本人が食べれる量を調整している。また水分必要な方には飲みやすい工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる力を最大限に使って頂きできない部分を支援している。また口腔ケアの大切さを説明している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票に記録しパターンを共有している。声掛けを行い、失敗を減らせるよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含んだものを提供し、運動や腹部マッサージを取り入れている。他にもいいものは試して行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けの工夫やその方の希望を聞けるようこちらから話しかけ情報を共有している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	理念の交換や整理など行い、清潔感にも配慮し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてを把握することは難しいが、聞かれた場合はすぐに答えられるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや、お手伝い、外気を吸うなど個々が楽しみが増えるよう支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に取り入れ、外出の機会を設けている。またご家族様へも呼び掛けている。普段は散歩に行けるよう努めているが、本人のタイミングで行くことが難しいことがある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の持ち込みはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や荷物を渡すだけでなく喜んでいる気持ちに共感している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をかえ、装飾の制作を一緒に行っている。ほとんどの方が今で過ごしているので、温度や光に気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不快な表情の方がいたら、原因を知り自由にゆっくり過ごせるよう工夫する。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な家具の配置になっていないか、少しでもすきな物に囲まれて生活していただけるよう工夫している。(観葉植物や置物など)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものを撤去し自由に使用できるよう配慮している。またつかいやすく配置し、日々工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌太平グループホーム

作成日：平成 30年 1月 23日

市町村受理日：平成 30年 1月 25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	定期的に避難訓練を実施しているが、消防の派遣や住民の参加が得られていない。災害が発生した時の具体的な訓練が必要。	火災以外の災害を想定し、水害、地震の設定をおこない、より具体的な訓練を実施し、消防や住民の協力が得られるように働きかける。	訓練計画を具体的な内容にする。消防の派遣を依頼し助言をもらう。運営推進会議の中で災害の講習を行い、住民の協力を得られるよう継続的に働きかける。	1年
2	2	地域との付き合いでは夏祭りや盆踊りに参加できているが、子供たちとの交流ができていない。	子ども達との交流ができるよう、働きかける。	職員の子供や知人を通して繋がりを作り、少人数から交流ができるよう働きかけていく。	1年
3	4	運営推進会議に家族参加ができていない。	ご家族の意見が反映できる運営推進会議を行っていく。	継続的な呼びかけと、参加できない場合の意見書を事前に配布し郵送できるように実施していく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。